

鹿行教育事務所だより 第11号

令和6年3月18日(月)



QRコードから鹿行教育事務所のホームページが見られます。

電話 0291-33-6134

FAX 0291-33-2447

E-mail rokyo@pref.ibaraki.lg.jp

【御礼】令和5年度学校訪問を終えて

桜のたよりが届き始め、令和5年度もあとわずかとなりました。

各市教育委員会並びに各校のご協力により、今年度も管内の全ての小中学校を訪問することができました。訪問は、子どもたちのたくさんの笑顔との出会い、教職員の温かく熱心な指導、そして学校に関わる方々のお力添えを感じる機会となりました。あらためて感謝申し上げます。

学力向上に係る学校訪問から

管理訪問同行による学力向上に係る学校訪問(34校)では、学習課題の設定や発問の工夫、1人1台端末の活用による「対話的な学び」を意図した場面の設定、自分の言葉で学習のまとめや振り返りをする時間の確保等、「子どもがどのように学ぶか」という視点を意識した授業を参観することができました。また、教務主任との協議では、学校改善プランの進捗状況や校内研究体制について確認させていただきました。その際、全国学力・学習状況調査や学習・学校生活アンケートの結果をもとに、解決すべき問題に焦点を当て、具体的な指導場面について協議できました。限られた時間でしたが、全ての子どもたちの豊かな学びの実現に向けた貴重な機会となりました。

学力向上推進プロジェクト事業等では13校を訪問し、各校の研究テーマの下に理論研修を進め、授業づくりを通じた校内研究の充実を推進しました。訪問の回数を重ねるごとに教職員の研修意欲の高まりや効果的な研究体制の構築が見られました。ねらいや手立て、成果と改善策を明確にするといった研究的な視点をもって日々の授業改善に取り組むことが、教職員一人一人の資質・能力を高めるとともに、教職員間の協働性を醸成し、学校力の向上につながると考えます。そのためにも、次年度は推進校の取組をエリアへ広めるとともに、各校の研究と鹿行教育事務所が行う研修会等がつながるように工夫・改善を図っていきます。

生徒支援に係る学校訪問から

今年度は、訪問時の全体会で校内研修を実施させていただきました。先生方には、事例を基に多様な考えや意見を出し合ってもらい、学校全体で児童生徒の支援方法や校内支援体制について議論いただきました。このような先生方の熱心な取組等により、今年度は、管内の不登校児童生徒数が減少に転じました。これは、先生方の丁寧な取組や対応の賜物です。あらためて感謝申し上げます。一方で、今後も児童生徒のケガや事故等、組織として迅速な対応が必要となる事案の発生も予想されるため、より機能的な組織体制づくりを推進していく必要があります。鹿行教育事務所としても、生徒指導班を中心に、学校と関係機関をつなぐためのネットワークづくりに努め、子どもたちが安心して通える魅力ある環境づくりを支援していきます。

また、生徒指導実践上の4つの視点「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」(生徒指導提要[令和4年12月改訂])を意識した授業改善に取り組むことの大切さを共有させていただきました。生徒指導実践上の4つの視点を意識した授業に取り組むことは、支持的な学びの場を醸成し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながります。児童生徒が主体的に課題を設定し、その解決に取り組むことや、他者と協働して創意工夫することなどが、自己指導能力を育成するという生徒指導の目的を達成するための大きなステップとなります。子どもたちが安心して通える「魅力ある学校づくり」の実現に向け、次年度も先生方のお力を存分に発揮してください。

集合指導訪問(特別支援学級担任等授業改善研修会)から

集合指導訪問では、各地域における特別支援教育の充実を図るために、自立活動の指導の理解及び改善のための取組(授業参観による授業改善、研究協議による指導方法の工夫等)を進めています。今年度は、管内7つの会場校(管理職部会:5会場、特別支援学級担任等授業改善研修会:7会場)、特別支援学級・通級指導教室・通常学級[会場校によって公開授業数や種類は異なる]において、参集により実施しました。

自立活動の目標は、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う」ことです。そのための指導においては、個々の子どもの的確な実態把握に基づいて、何を指導すべきか課題を明確にすることが必要となります。本年度は、子ども一人一人の困り感を正確に把握して、最も適切な指導内容を指導するために流れ図(自立活動における指導内容設定のためのプロセスシート)を活用した授業提案を行いました。各会場校では、「子どもの実態に合った効果的な授業であったか」という視点で、指導力の向上を目指した熱心な研究協議が行われました。また、公開授業の内容ばかりではなく、普段の指導上の悩みについても話し合われました。参加された皆さんが、研修した内容を各校にもち帰り、担当する「児童生徒のため」に生かせるように、集合指導訪問のさらなる充実の必要性をあらためて感じています。

引き続き「児童生徒のため」に、全ての皆さんと、共に前へ進んでいきたいと考えています。